

釈迦牟尼仏正伝御袈裟普及協会 〈「中外日報」平成十三年三月十日付〉

台湾仏教界へ袈裟百肩——功德普及を願い贈る——

仏陀の教えに帰依した仏道修行者が国の違いを超えて等しく身につけ、それを着用すること
で無量の功德があるとされる袈裟百肩を、日本
の「釈迦牟尼仏正伝御袈裟普及協会」(板橋興宗
会長―曹洞宗大本山總持寺貫首)が台湾仏教界
に贈呈した。二月二十日に台北市内の普賢講堂
(淨耀住持)で挙行された贈呈式には日本から
六人の僧侶が臨み、台湾側は中国仏教会の浄心
理事長、悟明前理事長ら長老が出席した。

この袈裟百肩は山形市に本店を置く法衣・仏

具店の井筒屋(榎森誠社長)が施主となり供養
した。榎森社長は「最第一清浄の衣財は糞掃衣
である」との信念から、釈迦牟尼仏正伝の袈裟
の功德を世界に普及することを発願し、横浜市
の曹洞宗善光寺・黒田武志住職の全面的な協力
を得て、超宗派の「釈迦牟尼仏正伝御袈裟普及
協会」を組織。その第一回として台湾への袈裟
贈呈を具体化した。

台湾での贈呈式には、日本から「正伝御袈裟
普及協会」会長である板橋貫首の代理として阿

部寛志總持寺副監院、臨濟宗大龍寺住職の松田紹典聖和女子短期大学理事長兼学長、善光寺の黒田住職、東隆眞駒沢女子大学学長、天台宗龍山寺の下村聖和住職、曹洞宗法恩寺の加藤昌史住職、井筒屋の榎森社長ほか関係者ら十二人が出席した。

贈呈式の会場となった普賢講堂は台北の中心街にあり、台湾の初代仏教青年会理事長で青少年の更生保護や教誨など幅広い社会活動により知られる浄耀法師が住持する寺。贈呈式は多数の信者が奉仕して準備・運営され、中国仏教会の浄心理事長、前理事長で名誉理事長の悟明長老、書家として知られる廣元長老(浄律寺住持)、国民党中央組織発展委員会の趙守博主任委員、立法院の潘維綱委員、華梵大学の馬遜校長ら仏教界内外の要人が参列した。

日本側が阿部副監院の導師で読経したのに続いて台湾の僧侶が読経し、それぞれが献灯。中

華仏教音楽協会のメンバーによる合唱、来賓紹介の後、浄耀住持が「お釈迦様のお袈裟を普及するため、この式典が開かれた。私たちは生まれ地域により、さまざまな違いがある。しかし仏教の教えとお袈裟の因縁を通して心を交流させ、違いを融合することができる。お袈裟も仏教の教えの一つであり、出家者の象徴である。

お袈裟を通して両国の仏教交流を深め、仏の教えを弘めていくことを願う」と歓迎の辞を述べた。

日本側の僧侶を代表して黒田住職が浄耀住持に袈裟を贈呈。黒田住職は「二十一世紀を迎えながら世の中は難しい問題が多い。お袈裟を贈呈する御縁を得たことを機に、お釈迦様のお徳を頂戴し、日本と台湾が力を合わせて世界平和と仏法興隆のために共に祈念したい」と挨拶した。これに対し浄耀住持から「正伝御袈裟普及協会」の板橋会長への感謝金杯が阿部副監院に手渡された。

台湾側を代表して、悟明長老は「本日の式典は台湾の仏教にとつて光栄だ。中日は兄弟の国である。私の記憶の中には台湾と日本との交流の歴史がたくさんある。その中でも本日のお袈裟の贈呈は素晴らしい因縁だ。二十一世紀は仏教の世紀であり、中国、日本、韓国をはじめ世界中で同じお釈迦様を教主として仏教を信奉している。この式典を機に互いの交流をさらに深め、世界に仏教を弘めてほしい」と挨拶。

浄心理事長は「正伝御袈裟普及協会は各宗派の連合体である。これは日本仏教においては宗派を超えるものだ。日本と中国のお袈裟は少し違う。しかし今回、普及協会の皆さまは台湾の仏教のためにお袈裟を作ってくださった。そのお心遣いに心から感謝する。今後とも、この会を通じて日本と親善交流を進めてゆきたい」と感謝の辞を述べた。

「両国の仏教一家のよう」

また廣元長老は「日本と中国は同文同種だ。日本仏教は中国から韓国を通じて伝わり、共に同じ仏教を信奉している。同様にしてお袈裟も伝わった。本日はこのお袈裟が日本から台湾へ伝わってきた。これは中日両国の仏教が一家のよつて同じであることを意味している。これによつて仏教はもつともつと広まっていこう」と意義を称えた。

この後、東学長が袈裟の根本精神とその功德について講演した。

ご挨拶

お袈裟は、仏教徒の衣服であります。

およそ二五〇〇年まえ、仏教の開祖釈迦牟尼

仏は、出家の修行者にお袈裟を着用するように指示されました。

爾来、仏教はお袈裟とともにインドから世界各地に伝播しました。アメリカ、ヨーロッパなど、各地に多様な展開をとげて今日に至っております。仏教が広まるどころ、必ずお袈裟が伝わりました。

お袈裟は、単に仏教徒の衣服だけではなく、釈迦牟尼仏の教えに帰依し、学び、身につけ、人びとに伝えることをあらわし、さらに出家僧だけでなく在家の信者も、これを着用するようになりました。お袈裟は、釈迦牟尼仏のおからであり、おこころであるというところまで尊崇の念がすすめられました。お袈裟を着用することは無量の功德があるとされております。

そのお袈裟の素材、色、大きさ、作り方、とりあつかい、種類など、年代や地域のちがいはあるにせよ、その根本精神や様式においては、

ほとんど一致共通していると言ってよいのであります。

お袈裟の一致共通している要点をまとめてみますと、次の三点に整理されるでしょう。

一は、お袈裟は、人間の執着の対象とならない路傍に捨てられた布を拾い、洗い、使える部分をはぎあわせた素材を原則とします。この素材でつくったお袈裟を糞掃衣ふんそうえといいます。これをもっとも清浄なものといえます。

また、この糞掃衣は、したがって原色というか純色を避けて執着心を離れ、濁った色すなわち雑色もしくは染めたものを用いるのであります。

二は、お袈裟は却刺かきくしの縫い方で作られます。一度縫ったところは少し後に返って縫いすめていく方法であります。ミシンなどの機械による縫製ではできないのであります。このことによつ

てお袈裟は縫い目がしっかりして丈夫であるから連続して縫い糸がほころびることがなく、しかも表の縫い目を美しく仕上げるのであります。

三は、お袈裟の功德です。お袈裟を福田衣ふくだいねともいいますが、それはお袈裟の縦の条は五条、七条、九条、十一条、十三条、二十五条など奇数になっていますが、これは田の畔をかたどっているのであります。田は、われわれのもっとも重要な食べ物であるお米をつくるように、お袈裟を着用することによって、お袈裟は最高のこの世の福田となり、この世に幸福をもたらすのであります。お袈裟を解脱げだつ服ともいいますが、それは修行の障害をしりぞけて解脱を得るから名づけられたのであります。

釈迦牟尼仏によって示されたこの三つの理念によって、このたび釈迦牟尼仏正伝御袈裟普及

協会は、七条衣百肩をおつくりし、みなさまに御供養させていただきます。

願わくは、釈迦牟尼仏の正伝の御袈裟の精神によって世界の平和が実現されますように。

日本平成十三年（仏誕二四六四年）二月吉祥日

（「中外日報」紙の記事を加筆修正した）

